

洗濯に関しては、バテンボの人々は衣服をほとんど持っておらず、週に2回ほど、川で水洗いするらしい。石鹼は非常に高価なもので、水洗いで済ますようだ。

ワラ集めやスカイ作りも女性の仕事である。子供の世話やしつけ、散髪などもやっていたが、裁縫はやっていないようだ。

また、狩猟の手伝いとして、勢子の役をも務める。キャンプの成員の大半が参加するネットハンティングの時に、動物をブッシュから駆りたてるために声を出す役である。

採集も時々やっているようだ。山の中(ブッシュの中)へ野生のキャッサバを採集に行くのである。

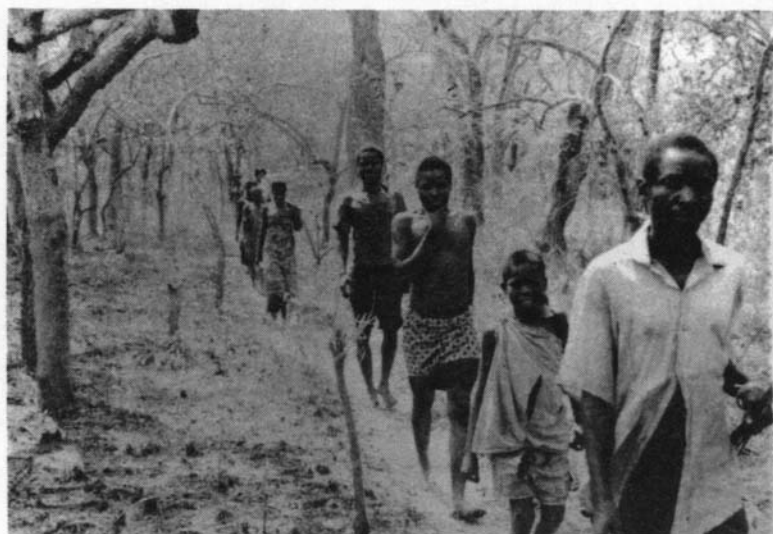
老婆や子供の仕事としては、母親の手助けや赤坊の面倒(御守)などをみている。

2 狩 猟 (ハンティング)

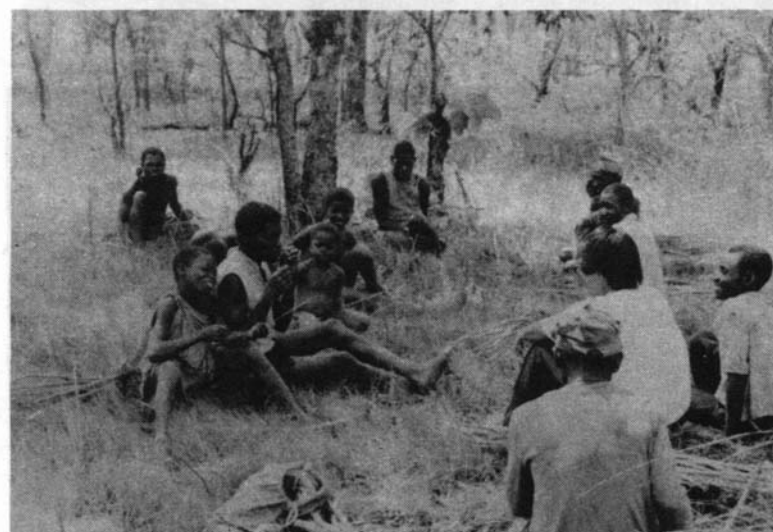
<方 法>

1人でハンティングに出かける時と、30人ほどのグループで出かける時とがある。1人でハンティングをする時は弓矢だけを持って行く。ハンティングが目的なわけであるが、その他に動物がいる場所を捜すという偵察的役目も務める。実際に動物の群やそれらの新しい足跡などを発見して戻ってきた時、翌日のハンティングはグループを構成して、ネットハンティングになるわけである。動物がいると考えられるブッシュ(ヤブ)の風下に、200~300メートルに渡ってネットを張り、風上でブッシュに火をつけ、勢子が大声を出し、動物を追い出す。風下のネットの前で待機していたハンター達が、弓矢で追い出された動物を射止めるのである。

しかし、いつも動物が獲れるわけではない。一匹も獲れずに、全員でキャンプに戻ることもあるようだ。現に、我々が参加した時も獲れずに終わった。



＜ネットハンティングに出かける＞
数人のグループでまちまちに出かけていく。
女性や子供も参加する。



＜全員が揃うのを待つ＞
ハンティングの前の一時である。先に行った人達は、後から来る人達を待っている。木立を抜く時＞



<ハンティングの開始>
ネットが張られ始める。



<張り終えたネット>

<時間>

朝起きて6時半ごろ出かけることもあり、8時～10時ごろに出かけて行くこともある。ハンティングの予定場所次第だ。

ネットハンティングの場合、準備のできた人達から数人で出かけて行く。先に出かけた人達は、途中で後から来る人達を待ち、ハンティングの

参加予定地に着いたら、ハンターは、ハンティングの準備を始め、

ネットを張り、ハンターは、ハンティングの準備を始め、

1人のハンターは、ハンティングの準備を始め、

彼らがハンティングの準備を始め、

彼らがハンティングの準備を始め、

彼らがハンティングの準備を始め、



獲れた動物の中でも、バテンボの人々が食べるものと、バギキに売るだけのものとがある。彼らは精霊の関係で、ブッシュビッグ(野豚)とキツンボ(野鹿)は食べない。食

<子供らと一緒に待機>

小さな子供達も参加するのだが、彼らはネットの端で待機する。彼ら

はうさぎなどの小動物を射るらしく、弓矢も簡単なものであった。

1日に獲れる量は、時期によりまちまちで全く獲れない日もある。彼ら



＜火がブッシュを焼く＞

ブッシュに火がつけられると、子供たちはネットを離れ、火の近くまで出て行ってしまふ。最初に動物を見つけるためだ。

＜張り終えたネット＞

<時間> ついて

<団体の遊動>

朝起きて6時半ごろ出かけることもあり、8時～10時ごろに出かけて行くこともある。ハンティングの予定場所次第だ。

ネットハンティングの場合、準備のできた人達から数人で出かけて行く。先に出かけた人達は、途中で後から来る人達を待ち、ハンティングの参加予定者が全員揃ってからブッシュに入って行く。ネットを張り始め、ネットを片付けるまで、2時間～3時間ぐらいのようだ。

1人の場合は、動物が獲れてしまえばそれで今日のハンティングは終了し、キャンプに戻って来る。

彼らが夜、キャンプで歌う歌の中にもあったが、なかなか動物が獲れずに夜遅く、10時ごろ帰ることもある。また、キャンプに戻れずブッシュの中で眠り、翌日の午前中に次々と帰って来たこともあった。

<獲物とその量>

獲れた動物の中でも、バテンボの人々が食べるものと、バギギに売られるものとのがある。彼らは精霊の関係で、ブッシュピッグ(野豚)とキソング(野鹿)は食べない。食べる動物には、アンティロープ、キゼブラ、ジュネットなどがある。特にアンティロープの肉は味がよいので、バギギ達の評判も良い。動物の頭と内臓は美味いらしく、売らずに、バテンボ自身で食べる。

1日に獲れる量は、時期によりまちまちで全く獲れない日もある。彼らの話しでは、1人のハンターは1日に1～2頭らしい。しかし、我々の滞在中においては、キャンプで1～2頭しか獲れない日々が続いていた。

大抵のバテンボは裸足で生活をしている。狩猟に行く時も、ブッシュの中に入って行くにも尚、裸足のままで平気のようだ。中には狩猟用に動物の皮を利用した靴や足の覆物だけを作ったものを自分で作り履いていた。

<獲物の分配>

昔は、獲れた動物の肉の1～2片を首長のところへ渡したらしいが、今日ではそういったことはしない。

年老いた親に対しては、肉を与えてやらねばならない。老人に子供がない場合、彼の親類が面倒をみるようだ。

1人でハンティングをした場合は簡単であるが、グループハンティングの場合の分配は難しい。まず、最も権利があるのは、動物の足跡などを発見してキャンプに知らせた者である。彼はそのハンティングで、獲物1頭に対して足2本がもらえる。(自分が射止めた獲物でない)次に、そのハンターの指示でブッシュへ入り、実際に獲物を見つけた者にはその獲物の前胸部がもらえる。動物を獲った場所に張っていたネットの持ち主は、足2本と頭がもらえる。最後に、矢を放ち獲物を射止めた者は、背中がもらえる。

大体このように分配されるらしいが、最初のハンター(キャンプに知らせた者)が、そのハンティングのリーダーとなる。仮に、そのハンティングで獲物が5頭獲れたとすれば、彼は10本の足を手に入れることができる。

しかし、実際にはそのハンティングに参加したのに獲物が手に入らなかった人達に、自分の肉を分けてやるらしい。そうすることによって、彼らの社会における共同作業であるハンティングに関するトラブルが、多分に解消できるからであろう。